

カメルーン★どうでしょう

2023年8月
カメルーン通信 No.10
JICA 海外協力隊
出町 卓也

Je suis allé au Japon en juillet.

Bonjour! カメルーンからでまちです。8月のエゼカは曇り続きで、雨が降り続く日々です。太陽の日差しを浴びる時間があまりなく、気持ちが減入りそうになります。しかし、その分涼しく過ごしやすいさもあり、果たしてどちらがいいのか…と思う日々です。日本の夏は日差しが厳しいですね。

さて、先月私は任国外旅行制度を利用して約3週間、旅行に行きました。行先は日本です。飛行機から降りた途端に出迎えてくれた、身体全体を包み込むような湿気を感じ、日本を実感しました。蒸し暑さはここよりも上だと思えます。

この期間、私は実家でゆっくりしたり、たくさんの人に会ったり、様々な学校を訪問したりするなど、リラックスした時間を過ごすことができました。気持ちをリフレッシュしつつ、久しぶりの日本はこれまでと少し違う視点で体感できました。



◇国によって違う食文化。

カメルーンから戻ってきて、真っ先に食べた日本食はなか卯の「親子丼」でした。半熟卵の誘惑に魅了されました。カメルーンでも卵はよく食べますし、料理でも使われます。ただ、卵は必ず火を通して全熟状態にしています。生や半熟で食べる習慣はそもそもありません。



左が親子丼（日本）、右がオムレツパスタ（カメルーン）。
全熟と半熟の違いがはっきり分かります。

カメルーンの卵料理では、私はよくオムレツパスタを食べます。卵二個に野菜、パスタを混ぜ合わせ、お好み焼きのように両面焼き上げるものです。お店のマダムはかなりしっかり火を入れてくれます。昔から、生卵には細菌や寄生虫がいる可能性があり、生で食べるとお腹を壊す、と考えられているからです。海外の人が日本に来て、刺身を食べる時に「大丈夫か？」と心配になる考え方と同じですね。ちなみにここで使われるパスタは、写真右のように水に浸かっています。これがふっくらとして食べ応えのあるコシを生み出しています。また、このまま食べることもできるので、電気やガスがない時に便利です。生活の知恵を感じます。



しかし、日本では卵を生や半熟でも食べることができます。古くから、日本人はわさびや醤油など殺菌効果のあるものを活用したり、清潔さを重んじていたりしたことで、食中毒や疫病の発生を抑えてきました。この積み重ねが、今の徹底した品質管理につながり、日本の食文化を形作ってきたのです。

日本とカメルーン、それぞれの食文化にはそれぞれの歩みがあることがわかります。ちなみに、私はカメルーンにいる時は火を通した卵で大満足していますが、日本滞在中はほぼ毎朝卵かけご飯を食べていました。その土地に居ると、どんどんその土地の食文化に染まっていきます。郷に入れば郷に従え、ですね。

◇便利なモノがなくても、自分で行う術を知ること。

日本は本当に生活が便利で、時間を生み出すために、人間の代わりに作業をしてくれる便利なモノがたくさんあります。洗濯機、乾燥機、掃除機、エアコン…。挙げればキリがないですね。しかし、これらは電気がなければただのモノになり、使えません。普段はライフラインが完璧に整備されている日本ですが、台風や地震といった災害時はどうなるかわかりません。その時、私たちはこれらのモノに頼らずに生活ができるのでしょうか。その術を知っているのでしょうか。

カメルーンに来てから、私はこれらのモノがなくても生活できる術を知りました。例えば洗濯。井戸から水を汲んで、洗剤を入れてしばらく服を漬け、手洗いをする。水を換えて、すすいで、干す。また、ここから一日の生活で最も水を使うのは、洗濯かトイレを流すことだと知りました。日本に住む人々は一日で 200L 以上の水を使っているそうです。ここでは汲んできた水の量を節約しながら使うので、断水時は洗濯やトイレ込みで、40L 程で生活できます。洗濯機を使っていた頃は気づかなかったことです。



学校にある井戸。学校が休みの時は朝イチしか錠が開いていないので、いつも大行列です。

モノがなくても、自分で行う術を知るとは、生活していく上で重要だと私は感じます。術を知ること、今あるモノだけで自分なりに工夫ができたり、有事の際に対応ができたりします。不便、ではなく生活のために自分で対応できる力をつける。これは「生き抜く力」とも言えます。もちろん、便利なモノが使えるのなら、どんどん使いましょう。その際、これは自分のどの活動の代わりになってくれるのか、自分がやるならどうやってやるのか…、を考えてみるのもいいかもしれませんね。



汲んだ水を家に運ぶ時は、基本的に頭に載せて運ぶのがカメルーン流。みんなバランスがすごい。

今回は日本滞在時に感じたことをまとめてみました。カメルーンに滞在することで、違った視点で日本を感じることができ、楽しい滞在になりました。今後もカメルーンの生活をこの通信を通してお届けします。またこの通信以外にも、『JICA 海外協力隊の世界日記』というブログを他の隊員と一緒に書いています。右のバナーをクリックすると、サイトに飛びます。こちらませひよろしくお願ひします。それでは、A bientôt !

